

趣意書

現在、血液透析療法は、延命目的から社会復帰を目指す治療法として発展しています。透析患者の社会復帰は当然のことであり、さらなる Quality of life の向上を目指し、血液透析療法が行われているとさえ言えます。

このため、透析器は大孔径化、高性能化される傾向があり、また、透析効率を向上させるため、様々な治療モードが考案され、透析液を直接置換液として用いる On-line HDF や I-HDF が臨床で行われています。

このような透析療法を選択した場合、透析液の水質管理を厳重に行い、清浄化された透析液を供給する必要があります。また、透析液も使用する透析液の種類により水処理装置から検討しなければなりませんし、さらには透析周辺機器も新しい技術が導入され、体重計、血圧計も含めたコンピューターのオンライン化も検討されています。

このように透析技術の発展はめざましいものがあり、透析患者様に、より良い透析生活を送ってもらうため、各施設においては優れた技術の導入を検討する必要があります。

当会はこれら多くの情報を集め、客観的な判断、検討するべく発足し、様々なテーマを今後も検討してまいります。

本年は演題を一各メーカーのモニタリング・システムとし、人工腎臓に関わる各メーカー7社より、最新の情報を教えて頂きます。

質疑応答の時間も設けます。皆さんと情報を共有し、有意義な会にしたいと存じます。

開催日：2017年11月26日（日）

会場：北海道大学学術交流会館（札幌市北区北8条西5丁目）

北海道透析技術談話会

代表世話人	大澤 貞利
世話人	阿部 正道
世話人	土濃塚 広樹
世話人	植村 進
世話人	石川 幸広

共催：北海道透析技術談話会

公益社団法人 北海道臨床工学技士会

中外製薬株式会社

扶桑薬品工業株式会社

後援：公益社団法人 日本臨床工学技士会

第 18 回北海道透析技術談話会

—各メーカーのモニタリング・システム—

2017 年 11 月 26 日 (日)

会場：北海道大学学術交流会館 (札幌市北区北 8 条西 5 丁目)

参加費：1,000 円

9:55-10:00 開会の辞

10:00-10:20

『東レ・メディカルのモニタリング』 東レ・メディカル株式会社

10:20-10:40

『ニプロのモニタリング』 ニプロ株式会社

10:40-11:00

『ジェイ・エム・エスのモニタリング』 ジェイ・エム・エス株式会社

11:00-11:20

『日機装のモニタリング』 日機装株式会社

11:30-12:00 「企業セミナー」 中外製薬株式会社

『透析と骨 最近の話題』

12:15-13:00 「ランチョンセミナー」 扶桑薬品工業株式会社

『手根管開放術の診断と術式』

演者：市立札幌病院 整形外科 副医長 上杉和弘 先生

座長：釧路泌尿器科クリニック 副院長 大澤貞利 先生

13:10-13:30

『カネカメディックスのモニタリング』 株式会社カネカメディックス

13:30-13:50

『コヴィディエンジャパンのモニタリング』

コヴィディエンジャパン株式会社

13:50-14:20 総合討論

14:20 閉会の辞

本会への参加は「血液浄化専門臨床工学技士」および「透析技術認定士」の認定制度単位 8 ポイントが付与されます。

共催：北海道透析技術談話会
公益社団法人 北海道臨床工学技士会
中外製薬株式会社
扶桑薬品工業株式会社

後援：公益社団法人 日本臨床工学技士会